

2009年11月10日

オリンパス 手術用機器を強化

オリンパスは9日、外科用手術機器の売上高を2015年3月期に09年3月期比1.5倍の2500億～3000億円に引き上げる方針を明らかにした。新たな手術方法に対応した腹腔（ふくくう）鏡などを実用化し、市場を開拓する。同社は消化器内視鏡の世界最大手だが、08年に英外科機器大手ジャイラスを買収し外科領域の強化を進めている。両事業合わせた医療事業売上高を5000億円以上に拡大する。

同日開いた09年4～9月期の決算説明会で菊川剛社長が表明した。今後欧米や日本で実用化を目指す製品として、手術時の切開部位を減らし患者負担を軽減できる機器や、肺疾患の治療機器などを挙げた。中国やインドなど新興国市場の開拓にも着手。菊川社長は「5年後に欧米事業と同等規模にしたい」と語った。

オリンパスの医療事業売上高は09年3月期で約3800億円。外科用機器市場は拡大傾向にあるため早期の事業拡大を目指す。

＝日経新聞＝